



- 1 成長が早い果実を残す作業。成長が遅かったり不格好な果実を選別して取り除きます。
- 2 現在活動中のメンバー。収穫の時を楽しみにしながら、日々の作業に打ち込みます。

## 復興イチゴで おおつちに元気を

温かなパイプハウスの中で、かわいらしい真っ赤な果実が実を結びました。

平成24年1月12日、東日本大震災によって被害を受けた農業者で「大槌町地域農業復興組合（会長 上野秀明さん）」を結成し、農業復興に向けた活動を実施してきました。

当初は5名のメンバーで立ち上がり、現在は8名で活動中。昨年は、共同作業で農地の瓦礫除去や水路の復旧などを行いました。また、今年度より東日本大震災農民生産対策交付金事業を活用し、阿部和子さんの農地にイチゴ栽培用のハウスや資材などを設置しました。

大槌でイチゴの栽培は非常に珍しく、復興組合のメンバーにもノウハウはありません。そこで、県の機関から技術的なアドバイスを受け、更には他の市町村で栽培している農家への視察などで栽培方法を学びました。

イチゴ栽培は、高設栽培という作業性の高い方法を採用し、立ったままで植え付けや収穫ができます。品種は、「紅ほっぺ」と「さがほのか」の2種類を栽培。夏に植え付け作業、収穫は12月から4月までの間に行われます。町内の産直やスーパーマーケットなどに出荷し、消費者からも「甘くておいしい」と評判も上々です。

今はハウス1棟での栽培ですが、将来的にはイチゴの産地を確立する夢を持って活動しています。



## 編集後記

▼1月13日（日）、成人式を取材させてもらいました。式が始まる前、受付となった中央公民館2階のロビーは、新成人の賑やかな声とはじける笑顔で溢れ返りました。晴れ着姿で友人たちとはしゃぐ新成人をみて、少しうらやましく感じました。式がはじまると、ロビーではしゃいでいた姿から一変。厳粛な態度で式に臨む姿は凛々しく、大人としての自覚を感じさせました。

▼式の最中、この日を共に迎える祝福されるはずだった友人の写真を抱え、式に参加する新成人の姿がありました。彼らにカメラを向けると、写真を中央にして笑顔になりました。まるでそこに友人がいて、共に祝福されているような笑顔でした。きっと彼らの心の中には、いつも友人の姿があるのだと思います。その姿に励まされ、支えられているのだと思います。新成人の皆さんはこれから苦しいことも少なくないと思いますが、心の中にいる友人がいつも寄り添い、支えてくれるはずです。（花石）